

「キャリアパスを考える ～ 志と遊び心と情性のバランス」

【開催日】2022 年 6 月 6 日（月）12:15～13:30（オンライン開催）

【講師】長谷 芳樹 先生（ピクシーダストテクノロジーズ株式会社 事業本部 シニアエンジニア）

第 1 回となる今回は、2006 年 9 月に本学工学研究科電気電子工学専攻で博士（工学）の学位を取得された後、奈良医大、神戸高専を経て、現在は、ピクシーダストテクノロジーズ株式会社に勤務しておられる長谷芳樹先生に、ご自身のご経験について、「志」、「遊び心」、「情性」、「結果」の 4 つの観点からお話頂きました。

1. はじめに

2006 年 9 月に本学の工学研究科において学位を取得した後、奈良県立医科大学で医学部のポスドクとして勤務し、神戸市立工業高等専門学校に講師として着任しました。その後、准教授を経て、現在は、ピクシーダストテクノロジーズ株式会社に勤務しています。この間には様々な分野の研究に取り組んできましたが、今ではそれが本当に良かったと思っています。ご自身の専門を極める方もいらっしゃるでしょうが、自分はあまり得意ではなかったので、色々なものを組み合わせながら取り組んできたという感じです。このように幾つかの職場を渡り歩いてきたのですが、振り返ってみますと、明確な「志」というものはなかった気がします。ただ、「遊び心」はありましたし、「情性」でやってきた部分もあるかと思います。しかし、「情性」も悪い面だけではないので、その点も含めて本日はお話をしてみたいと思います。「志」、「遊び心」、「情性」の 3 つのうち、自分はどれかが突出しているわけではないのですが、そこそこ揃っていたので、意外とそれが活かされていると感じています。偶然うまくいっただけかもしれませんが、1 つのサンプルとして聞いてください。

2. 志

「志」という言葉を小学館の『精選版 日本国語大辞典』で引いてみますと、「心中で、こうしよう、ああしようと思う心の働き。心が、ある方向をめざすこと」や「ある方向を向いている心の働き」と書かれており、方向性を示していますが、自分も「志」をベクトルと考えてきました。ただ、あくまでもベクトルであって、目的地ではないのです。本日の参加者は博士後期課程の学生と伺っておりますので、何年くらいで論文を書いて、何年くらいでこのポジションに就いてという「将来像の精度」を上げている方は多いと思いますが、これは「志」ではなく、最後のゴールです。それはそれで良いのですが、「志」が具体的過ぎると目標になってしまいます。もちろん、目標は大事なのですが、これがズレそうな仕事はしないということになります。ただ、何か不測の事態、ポジティブでもネガティブでもそうですが、面白い話が舞い込んできた時に、これが目標とは違うと思ってしまうと、何も進まなくなってしまう。こういうことを避けるために、目標ではなく方向性を持っていたと考えています。後でお話しますが、自分の場合には、論文を何本書いて、このポジションに就いてという崇高なことは考えておらず、音楽や聴覚が好きというのがあったので、この分野で面白いことが出来れば良いと考えていました。あくまでも現時点ですが、現時点から過去を振り返ってみますと、この考え方で良かったなと思います。

3. 遊び心

次に「遊び心」ですが、「直接、業績になるかどうかは分からないけれども、何か面白い気がするから手を出してみる」というマインドも大事ではないかと考えています。もちろん、これは論文になりそうとか、この人とこのような共同研究をすると成果が出そうという判断基準で動く方もいらっしゃいます。このような考え方も短期的には非常に大事ですが、それが、5 年後や 10 年後に役立つかどうかは予測できないと思います。そのため、「何か面白い奴がいた」と記憶に残してもらうことも重要かと思っています。日本ではこのような戦略をとっている人は少ない気がしますが、自分はできるだけ実践するようにしています。存在自体を認知してもらっていると、面白いことが始まる可能性があります。これはどの場でも実践可能で、質疑応答の際の気の利いた質問、国際会議でのプレゼン、バンケットやランチでも構いません。専門性を深めることも重要ですが、それだけで生きていける人は本当に一握りで、色々な分野同士を繋ぐということがこれからは大事になっています。多分野横断の領域が価値を持つようになっているので、自身の顔を売るということも重要かと思っています。ほとんどが空振りになるかもしれませんが、10 年後くらいに復活してくることもあります。

4. 惰性

「惰性」という言葉は、ネガティブに捉えられがちですが、自分はこれも必要と思っています。たとえ加速度がゼロでも、速度がゼロでなければ何かは進展するので、無理やり抗ったりせずに、周りに身を委ねる勇気を持つのも悪くないと考えています。何かの可能性をもらったら、もしくは見つけたら、抗わずにとりあえずやってみようというマインドも大事です。ただ、自身の本業ではないということで「頼まれ仕事を 60 点」でやるというのは逆効果です。「あの人は最低限のことしかやらない」、「興味のないことに関しては手を抜く人」と思われなくともいいです。なぜこのような考えに至ったかという、「志」で述べた部分と重なりますが、将来はどうなるかということは分からないからです。誰とコラボレーションするかとか、どういう研究テーマが次にホットになるかというのは、分かるわけがないのです。本当に基礎研究をやっている方は別かもしれませんが、そうではなくて、コラボレーションやシナジーでやっている方の場合には、分からないので、自分で方向性を決めて「こっちだ」というのは危険かと思います。外してしまった場合にはリカバリーが難しいです。イメージとしては、 $a=F/m$ の「F」を大きくするのは労力が要ります。加速度を生み出すには、意思が必要です。これに対して「m」は小さくすることが可能ということです。この「慣性モーメント」を下げておくと、自分では「強制力」を加えていなくても、面白い話が外から来た時に違う方向に進むことも可能になります。例えば、ポジションの選択、テーマの選定、共同研究者とのコラボレーションにおいて、自分はこれがメインだからというのではなく、周りから話が来た際に、「面白そう」と思って乗ってみるのも大事ではないかと考えています。テーマの選定やポジションの選択をこのような感覚でやっている方というのはあまりいないかもしれませんが、自分は、「惰性」で転職をしてみたりしているので、そう思います。「こういうポジションでなくては嫌だ」とか「このテーマができない」という方もいますが、それはそれで大事です。そういう方がいないと基礎研究は進みません。ただ、それはそれとして片手間でやりつつ、他のこともやってみようかという考え方も面白いのではないかと思います。そのため、自分は色々な大学や研究機関と共同研究に取り組んでいます。

5. 志と遊び心と惰性のバランス

「志」と「遊び心」と「惰性」のうち、どれか1つが突出していても成功するかと思いますが、自分のように突出していない人間でも、それぞれがそこそこあったらうまくいくのではないかなと思っています。もちろん、これ以外がダメと言っているのではなく、これ以外でも成功している方は沢山いらっしゃいますが、自分はこうだったということです。

ここで、もう一度考えてみますと、「志」については、自分は、意識が高いという意味での「志」は持っていませんでした。ただし、自分の時間やお金を投入してでも、何か面白いことをしたいという意識は常にありました。特に高専では、担任になって家庭訪問に行ったり、クラブ活動の顧問をしたりと多忙でしたが、何もしないままでは終わってしまうという危機感があったので、何か面白いことをしたいという意識は常に持っていました。しかしながら、目標を持っていたわけではありませんでした。また、「遊び心」については、深めるということは得意ではなかったのですが、色々な方々と関わるかとか、勉強会に参加してみるなどの活動は行っていました。そして、「惰性」については、キャリアパスなどはあまり考えずに、直感で転職しました。その結果どうなったのかといいますと、色々遊んでいたということが、結構大事でした。周りを見てみますと、現在所属している会社でも、あれもかじってこれもかじってという方は意外と少ないです。共同研究についても、前職の時、前々職の時の人脈にお世話になっています。ただし、新しい分野を創成できるような業績、超一流の研究者になれるような業績というのは、自分の戦略では生まれていないので、これを目指す人には、参考にはならないかと思います。

また、自分の就職と転職のきっかけを振り返ってみますと、全部「惰性」だったことが分かります。奈良医大は、元々所属していた研究室が共同研究を実施していたのですが、教授から「ポスドクを採用するそうだから行ってみてはどうか」と言われました。もちろん拒否しても良かったのですが、それまでの超音波の研究に加えて、自分でも聴覚や可聴音の研究がやりたかったので、渡りに船ということで行きました。次に神戸高専については、「公募が出ている」という話を聞いたのが最初です。ポスドクの任期は4年ばかり残っていたのですが、試しに応募してみたところ採用になりました。ただし、教育機関であることも考慮し、研究以外の教育の部分についても自身のプレゼンではしっかりとアピールしました。次に、現在のピクシーダストテクノロジーズについては、研究者向けの求人サイトである JREC-IN で公募を見つけました。神戸高専はテニユアの身分だったのですが、研究会で知り合った研究者の会社ということで、軽い気持ちで応募したら採用されました。プレゼンでは、「やってきたこと（専門分野）」や「できること（スキル）」について、具体例を列挙しました。あくまでも1つの事例に過ぎませんが、自分の例は、このような感じでした。

最後に、今日話を振り返ってみますと、「志」と「遊び心」と「惰性」のバランスによって、多くの方々と交流を持つことができ、予期していなかったような道が開けたのではないかなと思っています。

※ ご講演の後、参加した学生との間で質疑応答も行われましたが、内容については、省略します。
(文責：高等研究教育院 加治木紳哉)

事前申し込みが必要です

第1回「博士キャリアカフェ」(6月6日:オンライン開催) 『キャリアパスを考える ～ 志と遊び心と情性のバランス』

本学は、2021年度に科学技術振興機構(JST)「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」に採択され、挑戦的・融合的な研究に専念できる機会を用意するとともに、真の国際人となれるよう海外経験の促進、キャリアパスの支援を一体的に行っています。このキャリアパス支援の一環として、アカデミア、企業、官公庁等を問わず様々な分野の先輩から、キャリアパスの選択に関するご自身の経験や現在の状況についてお話を伺う「博士キャリアカフェ」(少人数グループによる座談会形式)を2022年度から定期的に開催します。講師の先生と、ざっくばらんに情報交換ができる貴重な機会となりますので、奮ってご参加ください。

なお、参加をご希望の方は、事前にお申し込み下さい。

【講師】 長谷 芳樹 先生

ピクシーダストテクノロジーズ株式会社 事業本部

博士(工学) (2006年9月 同志社大学)



【日時】 2022年6月6日(月)12:15～13:15(60分)

【構成】 長谷先生のお話(30分)、懇談(30分)

【対象】 本学の博士後期課程に在学中の学生

【定員】 30名程度

※ただし、申し込み順に関わらず、同志社大学大学院博士後期課程次世代研究者挑戦的研究プロジェクト支援対象学生の参加を優先します。

【申し込み方法】

- 本ガイダンスはZoomによるオンライン開催となりますので、事前申し込み制とさせて頂いております。
- 6月3日(金)までに、右のリンクもしくはQRコードからお申し込み下さい。参加用のURLをお送りいたします。

本件に関するお問合せ先: 研究開発推進機構研究企画課
TEL: 0774-65-8257
Mail: ji-knkak@mail.doshisha.ac.jp